



平成29年度第4回上下水道モニターアンケート結果について

1. テーマ

「上下流交流について」

2. 概要

上下流交流についての認知度等についてアンケートを実施。
設問数は6問。

3. 調査期間

2018/1/10～2018/1/24

4. 調査方法など

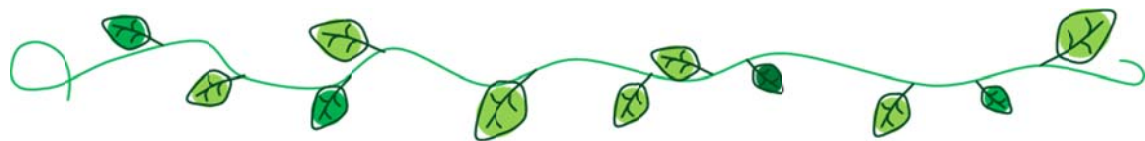
対 象：上下水道モニター494名

調査方法：インターネットを通じてアンケートに回答

回 収 率：調査対象494名に対して、

有効回収数 258名

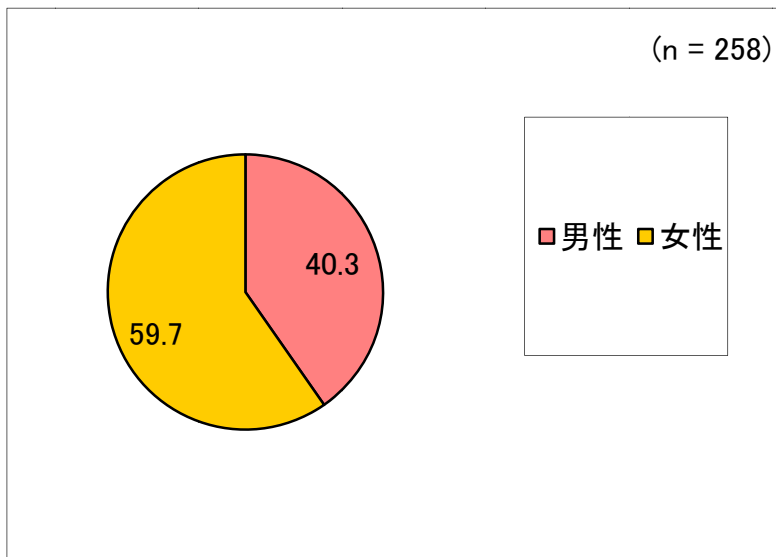
有効回収率 52.2%



本アンケートの設問は全 16 問（F S 除く）です。

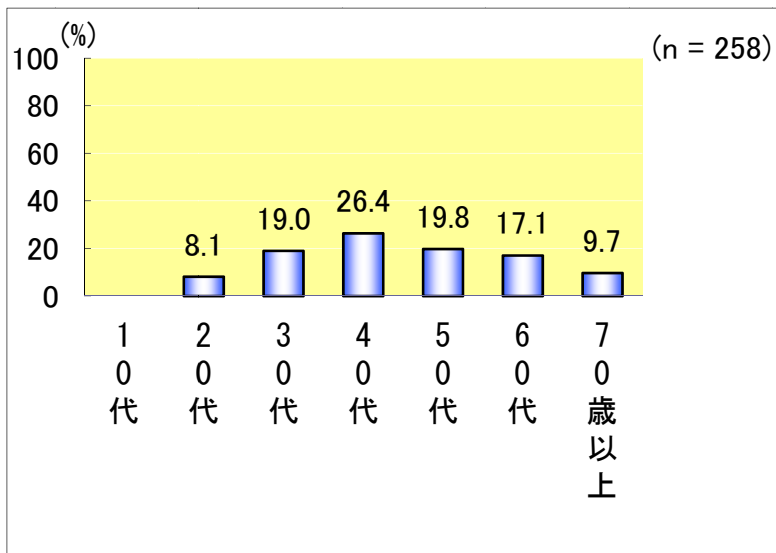
F S	性別、年齢
問 1	あなたは森林の保全活動や交流事業に参加したことはありますか？（あてはまるものを全て選んでください。）
問 2	本市の水道水の水源が木曾川であることをご存知ですか？
問 3	本市では木曾川三川流域の自治体と様々な取り組みを行っています。次のうちご存知のものはありますか？（あてはまるものを全て選んでください）
問 4	森林の保全活動や水源地域・流域の方々との交流事業などで、あなたが参加したい（行いたい）と思うものはどれですか？（あてはまるものを全て選んでください）
問 5	森林の保全活動や水源地域・流域の方々との交流事業として、次のうちどれが有効だと思えますか？（あてはまるものを全て選んでください）
問 6	上下流交流に関して、ご意見などがありましたらお聴かせください。

■性別



No.	選択肢	実数	%
1	男性	104	40.3
2	女性	154	59.7
	計	258	100

■年齢



No.	選択肢	実数	%
1	10代	0	0.0
2	20代	21	8.1
3	30代	49	19.0
4	40代	68	26.4
5	50代	51	19.8
6	60代	44	17.1
7	70歳以上	25	9.7
	計	258	100

■構成比

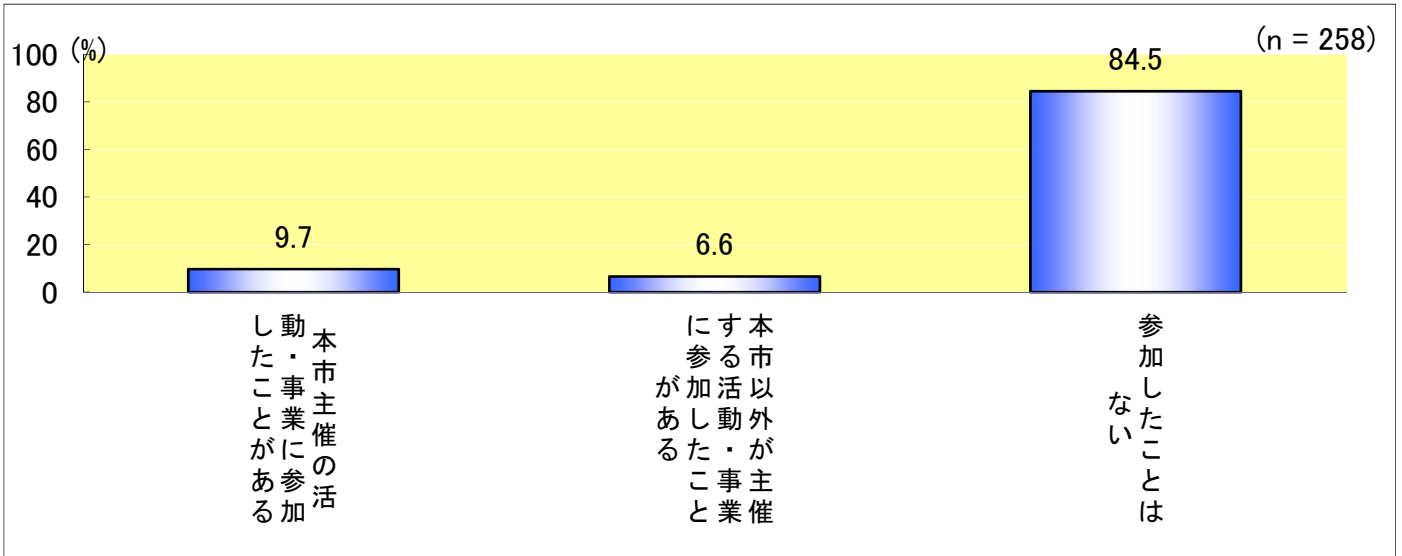
	男性	女性
10代	0	0
20代	8	13
30代	8	41
40代	24	44
50代	21	30
60代	25	19
70歳以上	18	7
計	104	154

アンケートにご協力いただき

ありがとうございました！



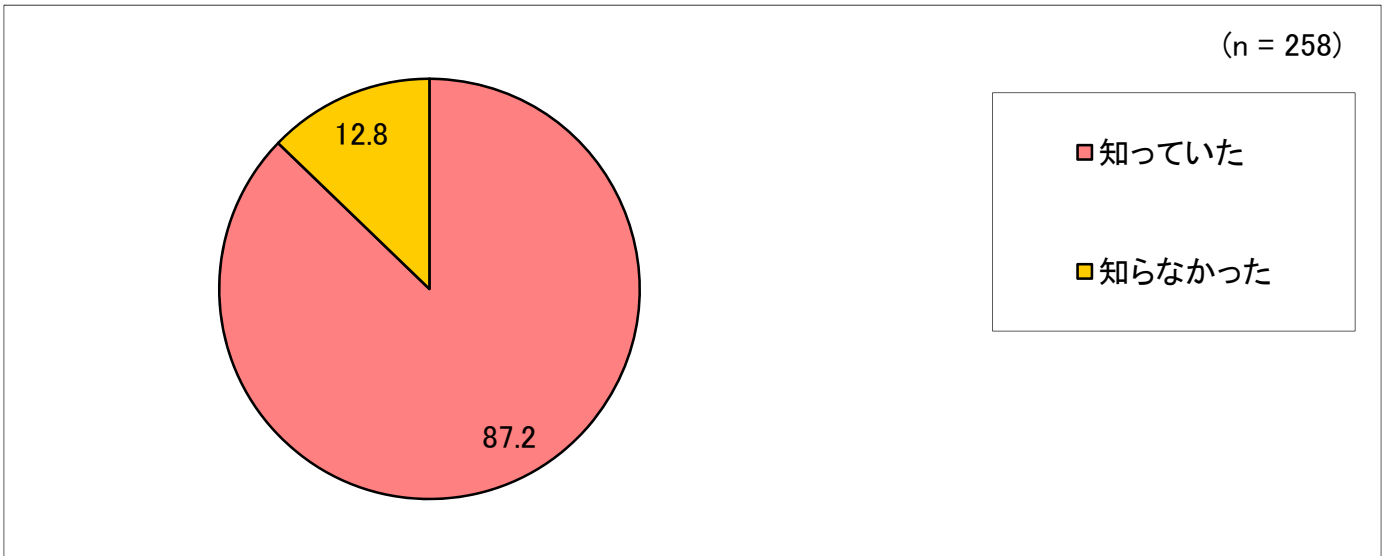
■問1 あなたは森林の保全活動や交流事業に参加したことはありますか？
 (あてはまるものを全て選んでください。)



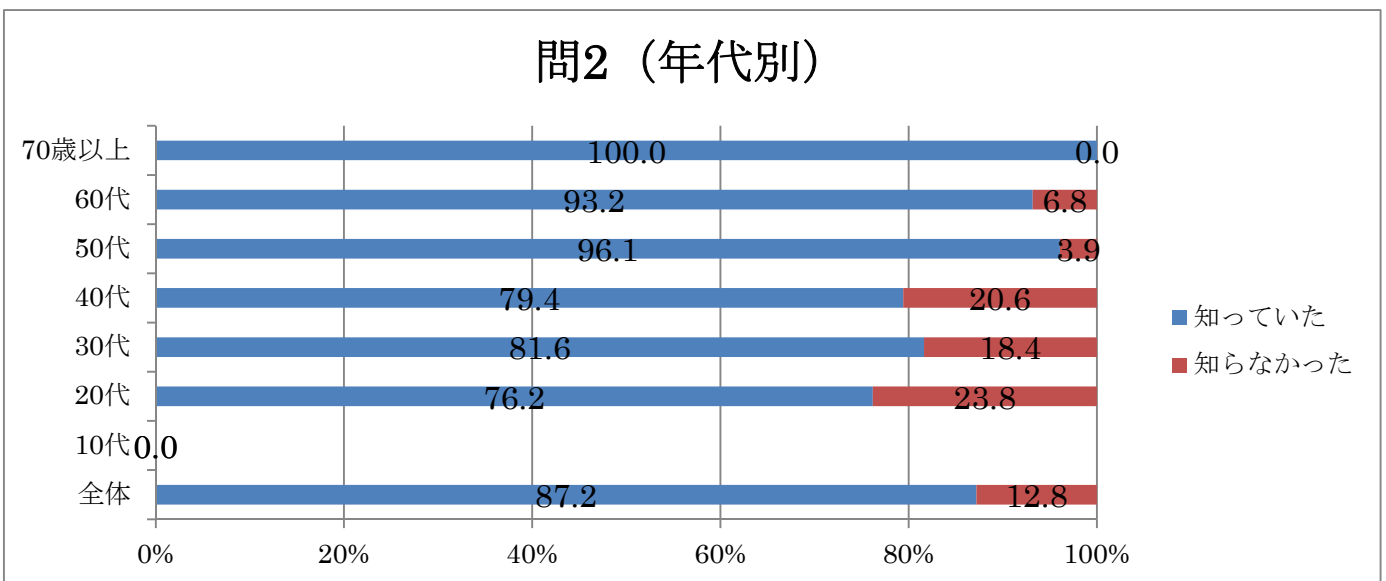
No.	選択肢	実数	%
1	本市主催の活動・事業に参加したことがある	25	9.7
2	本市以外が主催する活動・事業に参加したことがある	17	6.6
3	参加したことはない	218	84.5
	計	258	100

最も多いのは「参加したことがない」で全体の 84.5%でした。

■問2 本市の水道水の水源が木曾川であることをご存知ですか？

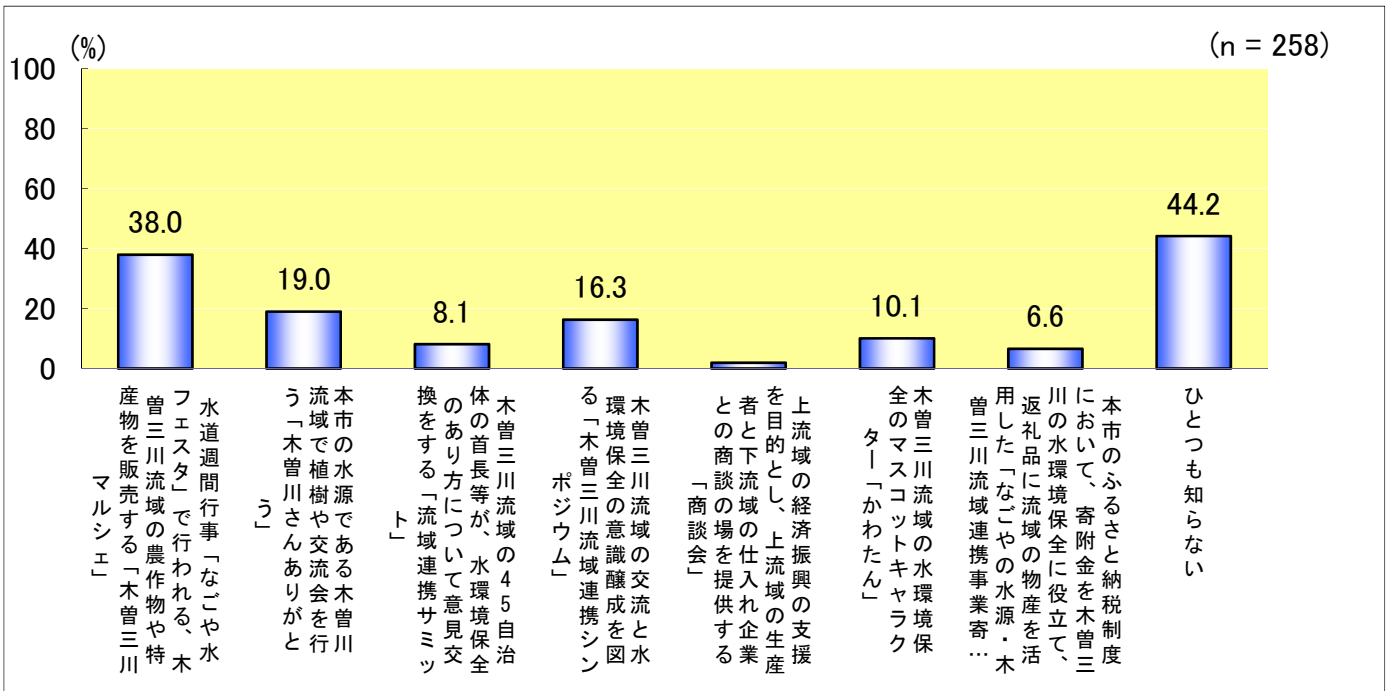


No.	選択肢	実数	%
1	知っていた	225	87.2
2	知らなかった	33	12.8
	計	258	100



本市の水道水の水源が木曾川であることについては、全体では87.2%が「知っていた」との結果でした。年代別にみると、年齢が高くなるほど「知っていた」と答えた方の割合は高くなりました。20代～40代では、50代以上と比べて認知度が10%以上低い結果となりました。

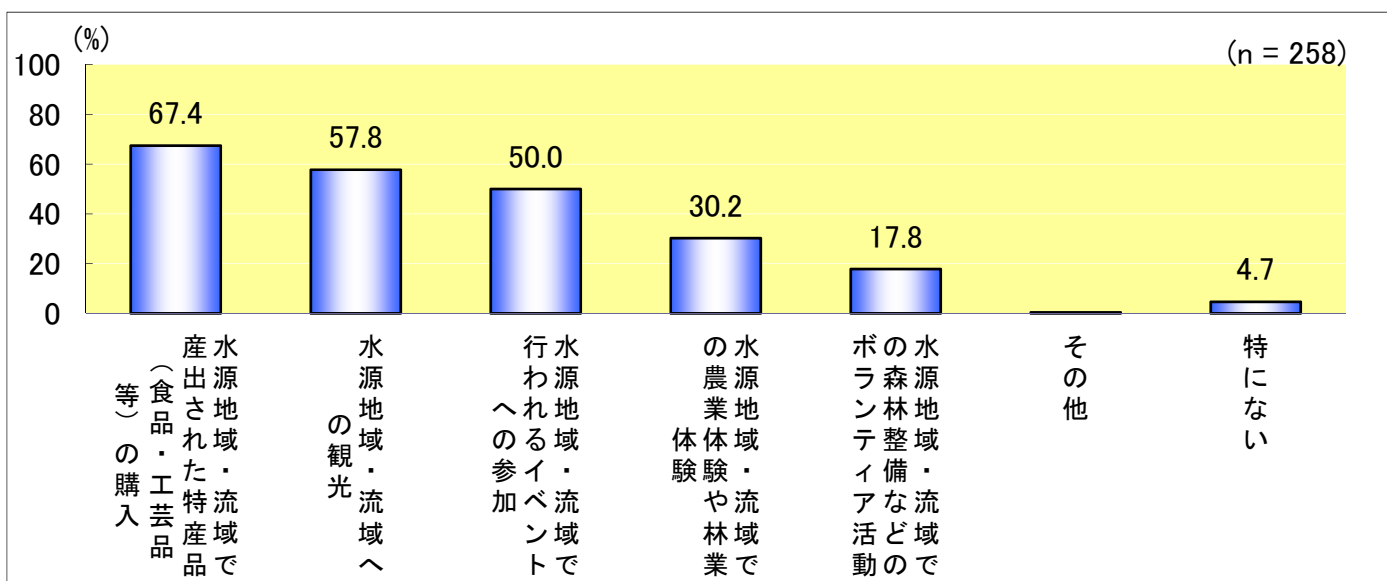
■問3 本市では木曾川三川流域の自治体と様々な取り組みを行っています。次のうちご存知のものはありますか？（あてはまるものを全て選んでください）



No.	選択肢	実数	%
1	水道週間行事「なごや水フェスタ」で行われる、木曾三川流域の農作物や特産物を販売する「木曾三川マルシェ」	98	38.0
2	本市の水源である木曾川流域で植樹や交流会を行う「木曾川さんありがとう」	49	19.0
3	木曾三川流域の45自治体の首長等が、水環境保全のあり方について意見交換をする「流域連携サミット」	21	8.1
4	木曾三川流域の交流と水環境保全の意識醸成を図る「木曾三川流域連携シンポジウム」	42	16.3
5	上流域の経済振興の支援を目的とし、上流域の生産者と下流域の仕入れ企業との商談の場を提供する「商談会」	5	1.9
6	木曾三川流域の水環境保全のマスコットキャラクター「かわたん」	26	10.1
7	本市のふるさと納税制度において、寄附金を木曾三川の水環境保全に役立て、返礼品に流域の物産を活用した「なごやの水源・木曾三川流域連携事業寄附金」	17	6.6
8	ひとつも知らない	114	44.2
	計	258	100

最も多いのは、「ひとつも知らない」で、全体の44.2%でした。
次いで「木曾三川マルシェ」が全体の38.0%でした。

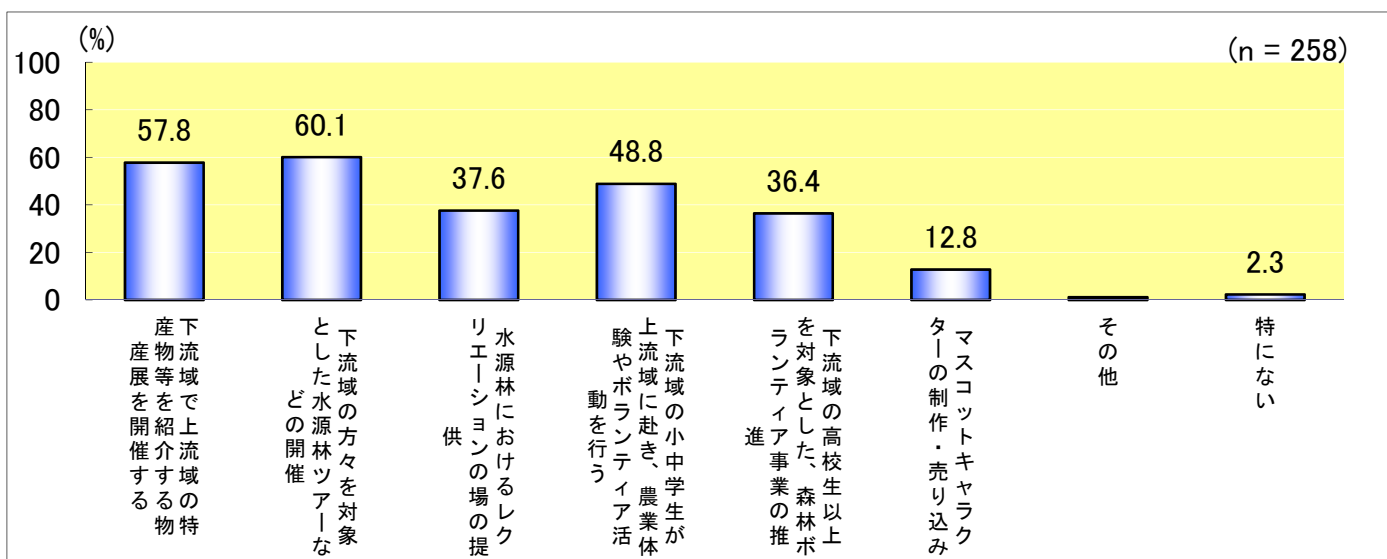
■問 4 森林の保全活動や水源地域・流域の方々との交流事業などで、あなたが参加したい（行いたい）と思うものはどれですか？（あてはまるものを全て選んでください）



No.	選択肢	実数	%
1	水源地域・流域で産出された特産品（食品・工芸品等）の購入	174	67.4
2	水源地域・流域への観光	149	57.8
3	水源地域・流域で行われるイベントへの参加	129	50.0
4	水源地域・流域での農業体験や林業体験	78	30.2
5	水源地域・流域での森林整備などのボランティア活動	46	17.8
6	その他	1	0.4
7	特にない	12	4.7
	計	258	100

最も多いのは、「水源地域・流域で産出された特産品（食品・工芸品等）の購入」で、全体の67.4%でした。次いで「水源地域・流域への観光」が全体の57.8%、「水源地域・流域で行われるイベントへの参加」が全体の50.0%でした。

■問5 森林の保全活動や水源地域・流域の方々との交流事業として、次のうちどれが有効だと思いますか？（あてはまるものを全て選んでください）



No.	選択肢	実数	%
1	下流域で上流域の特産物等を紹介する物産展を開催する	149	57.8
2	下流域の方々を対象とした水源林ツアーなどの開催	155	60.1
3	水源林におけるレクリエーションの場の提供	97	37.6
4	下流域の小中学生が上流域に赴き、農業体験やボランティア活動を行う	126	48.8
5	下流域の高校生以上を対象とした、森林ボランティア事業の推進	94	36.4
6	マスコットキャラクターの制作・売り込み	33	12.8
7	その他	3	1.2
8	特にない	6	2.3
	計	258	100

最も多いのは、「下流域の方々を対象とした水源林ツアーなどの開催」で、全体の60.1%でした。次いで「下流域で上流域の特産物等を紹介する物産展を開催する」が全体の57.8%でした。

■問6 上下流交流に関して、ご意見などがありましたらお聴かせください。

全般について

ほとんど存じ上げず申し訳ないですが素晴らしい試みばかりだと思います。

上下流交流は、積極的に行うといいと思います

このアンケートで、上下流交流の取り組みを知りました。

普段、関心の余り無い事なので少しずつでも目を向けて行きたいと、今回のアンケートで感じました。

水源が木曾川だからこそ、昔からそれほど水不足になることもなく、美味しい水道水が利用できると、小学生の時に木曾三川公園かどこかに社会見学に行って、聞いた記憶があり「名古屋の水は美味しい」と誇らしくも感じています。けれども、上流域の人たちのおかげで恩恵にさざかっている感覚は薄く、この水源を保つための努力がどのように行われているかを知る必要があると、このアンケートで思いました。

一回ダムを造ったら安心だと私は思っていました。高齢化なども関係することは初めて知りました。多くの名古屋の人は、一度ダムを造ったから安心と思っていると思います。また、私は昨年名古屋市水道水の水の缶詰を買いました。こういった取り組みを町内の回覧板などで知ってもらえるといいと思います。

木曾川河川敷に、行楽に出かけますが、木曾川自体の大切さをもっと知ってほしいです。ゴミが散乱するところも多く、悲しくなります。小さい子より、大人の世代のほうが関心を持ってほしいですね。

きそふくしまスキー場やおんたけスキー場へ行くと、この地域の皆さんの努力で我々が安心して飲んだり使ったりできる水を確保されているんだと感慨にふけることがある。下流の町で暮らす人にそんな気持ちに触れてほしい。

多くの人が森林の保全などを意識して生活していけるように、どんどん、活動が広がるといいです。

コツコツと地道な啓蒙活動が大事だと感じています。

木曾三川の水流が名古屋市民の貴重な水源になっている事を改めて思い至った次第ですし、上下水道局職員の方々、自治体、保全活動に関わっている方々の取り組みを深く考える事が出来ました。是非今後はボランティアなど関わっていきたいと思います。

水道利用者として、水源地区には日頃お世話になっております。交流事業などを通じて関係を深めることは、健全な水環境を守っていくにあたり、良い取り組みだと思います。

水に関する事は、重要なので、上下流交流は、特に重要です。

水資源でお世話になっているにもかかわらず森林保全活動に参加できずいつも気になっている。

水を預かる事は大変な仕事だと思います。意見ではありませんが、今後とも水に関しての苦労もあると思います。よろしくお願いします。

すぐには思い通りにいかないかもしれませんが、立派な行いをなさっていると思います。

蛇口をひねればあたりまえに出てくる水の大切さに気付ける交流になりますように・・・機会があれば参加させてください。

町に住む私たちはあたり前のように水道水を使っていますが上流があつてこそ、と心に留めておきたいです。家の事情でなかなか1日家を空けられなく、いろいろなイベントに参加できませんが、このような試みをこれからも続け、多くの人に意識してもらえるようにお願いします。

イベントが開催されたら行ってみたいです。

下流域の住民として木曾川上流域に行ってみたいです。
いろんな取り組みをされているのですね！
上流域と下流域の人々が交流する様々なイベントを息長く実施する。それらイベントを下流域の人々に浸透し、参加を促すよう根気強く働きかけて頂きたいと思います。
上下流交流という名前が、固い言葉でなじみにくいです。子どもは河川が好きなので、小さいうちから水の大切さに触れる機会があるといいと思います。河川は長くつながっていて、交流事業はひとつの地域でできることではないと思うので、県や市を超えた連携が必要だと思っています。
名古屋市が下流域なので仕方がないが、上流域の方が下流域を知る機会としてどのようなことが行われているかにも、興味がある。
交流会には何回か参加したが、一方的な講演が多く、あまり参考にならなかった。
ふるさと納税を平成 28 年にはしたけれど、昨年は名水レターにも何も書いてなかったのでお願いしなかった。名水レターに載っていなかったような気がします。桜山のアンテナショップでたまに特にえごま油とトウモロコシを買っています。木祖村へ行くツアーを広報なごやで見ますが、日にちの都合が合わなくて残念ながらまだ行っていません。
今年でしたか、森林税が徴収されると新聞で見ましたが、水に関する事に有意義に使える様にして頂きたいと思います。色々な企業が森林保全を実施していますが、企業の保全活動状況を教宣する事と木曾三川の上流も、企業の保全参加を促す様にして欲しいと思います。特に、水を沢山使用している企業は積極的に参加するとか。
ある意味では運命共同体的なところもあるので水源を守るために積極的に関わっていったほうがよい。水源地が汚れる、過疎化が進み管理がしにくくなる、更には異国の人に買い占められるなどの懸念が見込まれるので上流域との交流をもっともっと増やしたほうが良い。将来的に過疎化が進む場合は利用下流域での協同購入、共同管理などを予定していったほうが良い。
上流域の具体的な地名や地図上の位置・公共交通機関でのアクセス方法などを知りたい。
木曾川は名古屋市にとって大切な水です。実現に多々問題はあると思いますが堀川に木曾川から導水して浄化し水の都名古屋と云われるようになったらいいと考えています。
「木曾三川流域の水環境は、上中流域の人々の活動に大きく依存しており、これらの地域では高齢化や過疎化、農林業の衰退などさまざまな課題がある」とありました。この課題と今回アンケートの交流事業との関係がよくわかりません。交流事業は必要なののでしょうか？
先日テレビで下水道の浄化についてやっていましたが、水をきれいにし過ぎてプランクトンの量が減り、魚（その時はジャコ）が獲れなくなった話でした。もちろん気候の変化も有りますが、初耳で驚きました。

PRについて

もっとアピールした方が良い。
市の広報誌などで掲載してもっとアピールして下さい。
知らないものが多い、宣伝不足です。
おのおのの交流事業についての、イメージ（具体性）がまだまだ自ら認知不足です。もう一步、身近に感じ、参加性の意義を理解できるスタンスに持っていかなければと思います。もうひとつ、一步目のきっかけが欲しいです。

市民に対し、ホームページや広報誌で積極的に周知徹底させるため、例えばカラフルにするなど、したらどうでしょうか
自分が何も知らない一人だと思います。もっと広報を見るきっかけや展開方法を検討下さい。
あまり知らない事業とかあって、参加してみたいものもあった。多くに周知をしてほしい。
上流地域のおかげで美味しい水が飲めてる事をより多くの人に知ってもらうための周知活動をお願いします。
いろいろな交流があることをあまり知らなかった。もっとだれでも参加できるものを広く広報してほしい。
もっと、一般の人がわかるように、水道使用量などの紙にお知らせと書いたほうがアピールできるとおもいます。
なかなか情報を自分からでないと入手できないので、何か情報の提供の部分を考えてもらってもいいと思います。
知らないことばかりなのでもっと市民へ浸透していただけるように PR していただけたらと望みます。やはり子供連れ、子供に興味をひくようなイベントであれば必然的に大人も足を運びますので、食べ物を交えてのイベントを希望します。

子ども・親子向けのPRについて

子供の頃の記憶は、ずっと残るものなので、小中学生への啓発活動は効果が大きいと思います。
上下流交流、素晴らしいと思います。特に小さなお子さんから学生さんに興味を持っていただきたいです。
高年齢化のなかでできるだけ多くの若い方々に参加してもらうことが将来にとって大事だと思います。
名古屋市民は、木曾三川の活性化のために尽力して下さる方々に感謝と協力をしないといけない。森林事業や農業の推進のため高校生などが、社会学習の一環として現地を訪れてボランティア活動をする。体験から感謝の気持ちも大いに生まれるのではないかと。
当たり前のように毎日使っている水は上流の地域の方々の協力と事業者の努力のうえにあるということ認識するためにも、子供の頃からの教育が大切だと思います。なくなってから気が付くのでは遅いので、上流地域へ親子で参加できるボランティアや学習会、課外授業、一般の方向けのイベント等を希望します。
夏休みや春休みなどに親子で参加するイベント、体験などはとても興味深いし、日頃あまり関心がない人にも興味を持ってもらえるのではないかと思います。
小学生以下の子供たちも楽しめる企画があるといいなと思いました。
子供たち、また孫たちの夏休みを利用した、キャンプなどのレクリエーションによる世代を超えた交流が永く森林保全、水源地域保全につながるのでは、と思います。
木曾川がどんなに大きな川かわを知らない小学生（我が家の息子）がいます。近くを流れる川と同じくらい（たとえば天白川など）だと思っています。我が家は木曾川を見に行っただけで大丈夫ですけど、小学校の学習などで木曾川の大きさや長さが分かる授業があるとおもしろいかなと思います。自分たちが使っている水を知る機会になるかと思っています。
なかなか参加できないのですが、夏休みや冬休みなど、親子で参加できるようなものがあると助かります。
学校教育を通じて、遠足などの候補地にしてはどうか。
学校の社会見学等を通じて水資源がどこから来ているか森林に関心を持ってもらう活動を教育する。

PR方法について

上流での、水資源を使った物産展には興味があります。名古屋の百貨店などで開催してください。、
様々な取り組みをされているとの事ですが、私は全く知りませんでした。栄・名駅などで、特産品をアピールするなど、みんなに周知する機会を作った方がいいのではないかと思います。
水源地域への観光ツアーなどを実施して頂きたいです。
水源地域、流域地域でのイベントやツアーなどの枠を広げたり、もう少し回数が多くなると、認識する機会も増えるし、参加も、しやすくなると思います。
体験学習の充実。
水源林ツアーなどの企画がありましたら、ぜひ参加してみたいです。
ツアーはとても興味がありますが、日数や人数が限定されているので、もっと回数があればたくさんの方が興味をもつと思います。旅行社でツアーを組んで、例えば市からいくらか補助がでるとかどうでしょうか。
宿泊散策企画。ゆっくりと上下それぞれの環境での楽しみ方を体験してもらい、意見交換するなどして、お互いの暮らしや環境を改めて発見する。
農業体験や林業体験、ボランティアなどは面白そうなので、もし開催されることになったらぜひ参加したい。
水源林の整備「森林ボランティアの推進」の実効性をお願いしたい。
森林資源の保全について、休日を使い交流会の開催を行い、費用の掛からないイベント等、市民の参加がしやすい魅力あるものを考えてほしい。
水源地区を身近に感じられる催しを水源地区で行われるとうれしい。
ゆるキャラや地方で活躍しているアイドルなどに協力してもらってイベントをたくさん広める
尾張藩の時代から続く木曾の森林と名古屋市の関わりを紹介しては如何か。
上流域にお住まいの方の水や水資源についてのご意見や、日頃の思い、最近の天候に寄せる思いなどをインタビューし、定期的にレターで紹介すると水源への理解が深まり、親近感が湧くのではないかと思います。